

選挙ポスターと政治家リクルート

候補者の笑顔は票につながるのか——

衆院選小選挙区に二人しか立候補者がいなければ、有権者は候補者の所属「政党」で投票先を選ぶであろう。しかし、立候補者数が増えるにつれて「政党」ではなく候補者ポスターの「見た目」や「笑顔度」などトリビアな要因が得票に与える影響は大きくなる。

浅野 正彦
▶ 拓殖大学政経学部教授

政治家になるための二つの難所

「どういう人が政治家になるのか？」という問いは、時代を超えた「古くて新しい問題」である。二〇〇一年に『誰が政治家になるのか——候補者選別の国際比較』（吉野他編）という本が出版された。そこでは「どのような人が政治家になる」とし、実際になつて

いるのか」という問題を、日本、イギリス、ドイツ、アメリカにおける政治家リクルートの実態を比較政治学の観点から、実証的に明らかにすることを試みている。政治家になるためには、二つの難所を通過しなければならない。「政党公認」と「選挙での当選」である。立候補しても当選しなければ政治家にはなれない。もちろん政党から公認を受けず「無所属」で立候補することもできるが、小選挙区制下で無所属の候補者が当選するのは至難の業である。政党は党员から推薦を受けたり一般から候補者を公募し、書類審査、筆記試験、面接を経て候補者を絞るわけだが、最終判断は政党執行部が下す。その際、政党執行部にとって最も重要な判断材料は「当選

しそうか？」ということであろう。では何を基準にしてこの「当選しそう」な候補者を確定するのか？「党と政策が近い候補者がいい」とか「若い女性候補者がいい」など、最近の有権者の動向を考慮しながら、侃々諤々の議論を重ね、公認候補者を決めるであろうことは容易に想像がつく。政治家になるための二つ目の難所は選挙である。この判断は有権者が下す。政党執行部が必死になつて選別した公認候補者を、今度是有権者が評価する。つまり、政党にとって候補者リクルートとは有権者からの「通知表」なのだ。

以下、新人候補者と有権者の目線に立ち、二〇一七年総選挙データを参考に「選挙ポスターにおける笑顔度」という側面から、総選挙候補者リクルートに関する特徴を整理する。

政治家は「小粒」になつたのか？

細川内閣で、衆議院選挙制度が中選挙区制から小選挙区比例代表並立制に変更されて以来、合計で八回の総選挙があった。二〇一七年十月二十二日に施行された第四八回衆議院議員総選挙は、新し

あさの・まさひこ

政治学 Ph.D. (UCLA)。東京大学社会科学研究所
助手を経て2006年より現職。専門は比較政治学
および政治学的方法論。主論文にMasahiko
Asano and Dennis Patterson, "Smiles, Turnout,
Candidates, and the Winning of District Seats:
Evidence from the 2015 Local Elections in
Japan." *Politics and the Life Sciences*, Vol. 37
(1), pp.16-31 (April, 2018)。著者に「Rによる計
量政治学」(オーム社、近刊)など。

い選挙制度下では八回目の総選挙
であった。選挙制度の変更が話題
になった一九九〇年代後半から二
〇〇〇年代にかけて、小選挙区制
になると「政治家の器が小さくな
る」とか「政治家が小粒になる」
などといわれた。「政治家が小粒
になる」根拠については、大きく
次の二つに分類できる。

一つは「時代の要請」という考
え方である。確かに、サンフラン
シスコ平和条約を締結した吉田茂
や安保条約の自然成立までこぎ着
けた岸信介は、激動する時代を駆
け抜けた英雄であり、現役の政治
家の中に彼らに匹敵するような人

物を見いだすことは難しい。敗戦
からの復興、連合軍による占領と
いう激動の時代を乗り切るために
は「大粒の政治家」が必要とされ
たのであり、経済大国としてアメ
リカと肩を並べるまでになった日
本には、かつてのような大粒な政
治家は必要とされず「小粒」で十
分なのだという説明である。

もう一つは政治家人材発掘と登
用、つまり政治家リクルートメン
トの方法が変わったという考え方
である。経済的に豊かになった日
本社会で有権者が政治家に求める
ことは昔とは異なり、その有権者
の意向を受けて各政党が「選挙に
勝つ」候補者を選んで立候補させ、
当選しているという説明である。

いずれの説明も「さもありな
ん」と思われるが、残念ながら「政
治家が小粒になった」ということ
を実証的に検証し、多くの研究者
から支持されている研究成果は、
現時点ではまだ発表されていない
ようである。そもそも実証分析に
不可欠な「小粒の政治家」の定義
が困難であり、実際に「政治家の
小粒度」を計量化することは容易
なことではない。

選挙ポスターの「笑顔度」
からみたリクルートの現状

「政治家が小粒になったかどう
か」を検証することは難しいもの
の、有権者が候補者の「何を手が
かりに投票しているのか」という
研究はかなり蓄積されている。有
権者は、どのような基準で候補者
を選んでいるのであろうか？ 有
権者が特定の候補者に投票する
際、候補者の「所属政党」や「政
策」などがその投票要因として考
えられるが、通常、トリビア(取
るに足りない)と考えられている
要因が投票に影響しているという
研究成果が多く発表されている。
候補者の「容姿」や「笑顔」はその
トリビアな要因の一つと考えられ、
候補者の「見た目」はその候補者
が獲得する票数に影響を与えるこ
とが明らかにされている。

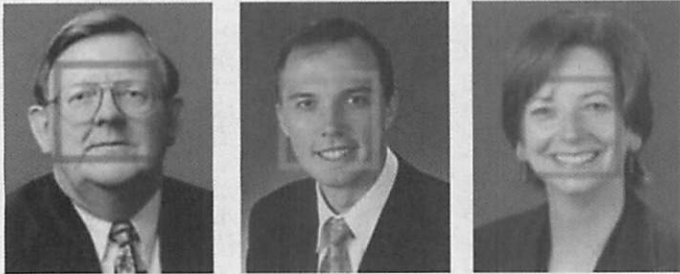
米国デポー大学の心理学者ハー
テンシュタイン教授が書いた「卒
アル写真で将来は分かる」という
本の中で、「二三歳の子供に国政選
挙の候補者の写真をみせたところ、
七十一%の確率で当選者を当て

たという研究成果を紹介してい
る。大人と同じように、子供も知
覚的な手がかりを利用して判断し
ていること、そして、その知覚的
な能力は幼少の時期に発達するこ
とがわかっている。政党執行部が
候補者を公認する際、候補者の年
齢はもちろん、性別、学歴、職歴、
思想、家族構成、そして候補者の
「見た目」といったトリビアな要因
に至るまで、様々な事を考慮する
に違いない。有権者が選挙で候補
者を選ぶ際にも同様と思われる。

近年、AI(人工知能)が急速
に発展したことに伴い、顔認証技
術も大きく進歩した。その研究成
果の一つに、オムロンが開発した
OKAO Visionという自動顔認証
技術がある。これを使って、選挙
ポスターの「笑顔度」を測定し「笑
顔の候補者ほど得票する」という
研究成果が海外の社会心理学や政
治学の学会誌に紹介されている。

候補者の「笑顔度」

図はOKAO Visionを使って計
測した笑顔度の例である。次の写



0

0.52

1

出典：Y. Horiuchi, T. Komatsu, and F. Nakaya, "Should candidates smile to win elections? An application of automated face recognition technology," *Political Psychology*, 2012, 32(6): 925-933.

真は0、中央は0.52、そして右は1の「笑顔度」が計測された。いずれの数値も、我々が認識する笑顔の程度と近いことがわかる。

ここでは、二〇一七年の総選挙における選挙ポスターの「笑顔度」を計測した結果を使って、日本の候補者リクルートの特徴を描き出すと共に「新人候補者の笑顔度と得票の関係」についての研究成果の一部を紹介したいと思う。

新人候補者の「笑顔度」 (政党別)

新人候補者ポスターの「笑顔度」の分布を政党別にみると、八つの政党の中で、立憲民主党と幸福の科学の新人候補者の笑顔の割合が最も多く、自民党の新人候補者の笑顔が最も少ない。共産党と希望の党の新人候補者は笑っている候補者と笑わない候補者の割合がほぼ同じで、分布の形式が類似している。もし、ポスターの笑顔度だけで当選するのであれば、立憲民主党と幸福の科学の新人候補者が最も善戦し、自民党の新人候補者は落選するはずである。

当選した新人数と立候補者数を、当選者の多い順に並べてみる(カッコの中は「当選者数/立候補者数・当選率」を表す。太字は当選者数)。

- (1) 立民 (二六 / 三二・五〇%)
- (2) 自民党 (三三 / 一四・九三%)
- (3) 希望の党 (九 / 九八・九%)
- (4) 維新 (二 / 二七・七・四%)
- (5) 社民党 (一 / 一六・〇%)
- (6) 無所属 (一 / 三八・二・六%)

- (7) 共産 (〇 / 一九五・〇%)
- (8) 幸福の科学 (〇 / 三五・〇%)

ポスターの笑顔度が高かった立憲の新人候補者は、立候補者の半数に相当する二六人が当選している。しかし、ポスターの笑顔度が高かった幸福の科学の新人候補者は一九五人中一人も当選していない。他方、最も笑顔度が低かった自民党では一四人中一三人(九三%)も当選している。笑顔度は中程度だった小池都知事率いる希望の党の新人は九人(九%)が当選している。笑顔度は中程度だった共産党は一九五人立候補して一人も当選していない。以上の結果から、ポスターの笑顔度だけで「政党別」新人候補者の当落を説明することはできないことがわかる。

新人候補者の「笑顔度」 (男女別)

新人候補者の「笑顔度」の分布を男女別にみると、男性より女性の方が圧倒的に笑顔度が高い。男性はあまり笑わず、女性はほとんどが笑顔の傾向がある。ポスターの笑顔度だけで新人候補者の当落

が決まるのなら、女性の方が当選率が高いはずだが、現実はそのようではない。四六四人の全新人立候補者中、女性は一〇八人立候補して九人(八・三%)が当選、男性は女性の約三倍の三五六人立候補して三一人(八・七%)当選している。男性の方が若干当選率が高いものの、ほとんど違いはない。

なぜ女性の新人候補者の方が男性よりもポスターの笑顔度が高いのであろうか？ おそらく、日本では「男は度胸、女は愛嬌」という表現に代表される規範意識が広がっているためなのかもしれない。

新人候補者の「笑顔度」 (年代別)

新人候補者の「笑顔度」の分布を二〇代から七〇代まで年代別に見ると、顕著な傾向がある。二〇代候補者の過半数は笑顔だが、三〇代、四〇代と次第に笑顔の候補者が減り、六〇代以降は笑わない候補者が多い。笑顔度だけで選挙の当落が決まるなら、最も笑顔度が高い二〇代の新人候補者の当選率が最多のはずだが、一八人立候

補している二〇代の新人候補者は一人も当選していない。他方、最も笑顔度が低い七〇代からは一人が立候補しているが、この世代でも一人も当選者はいない。

立候補者数は四〇代(二三人)と六〇代(二三人)とほぼ同数だが、当選率は四〇代が一五%と最も高く、六〇代の当選率は極めて低い。年代別の当選率は高い順から四〇代(二五%)、三〇代(二二%)、五〇代(九・二%)、六〇代(二・六%)、二〇代・七〇代以上(〇%)となる。なぜ、年代が上がると候補者ポスターの笑顔度が下がるのであろう? おそらく「公的な写真では笑うべきではない」というような規範意識が年配者ほど強いとも考えられる。年代が下がるほど、そのような規範意識とは無縁になるため、候補者ポスターでの笑顔度が上がると推測できる。

候補者の「笑顔度」

(現職・元職・新人別)

新人・現職・元職別にみた候補者の「笑顔度」の分布は極めて類

似している。いずれにおいても笑っている人と笑わない人の二グループに分かれていて、中程度の笑顔の候補者が最も少ない傾向がある。わずかながら新人、現職、元職という順番で笑っている候補者が多い傾向があることが認められるが、基本的に大きな違いはない。しかし、小選挙区当選と比例区の復活当選を含めた当選率を比較すると、現職が八四%、元職が三五%、そして新人がわずかに八・六%と極めて大きな差が認められる。さて、次に「ポスターで笑顔の新人候補者はより多く得票しているのか?」という問題を考える。ここでは、重回帰分析という統計手法を使って、得票率に与えると思われる様々な要因を「統制すること」で、笑顔度と得票率の関係について一歩踏み込んだ分析を試みる。

新人候補者は笑うべきか?

新人候補者ポスターの笑顔度と得票の関係を分析すると「立候補者数」が重要な役割を果たしてい

ることがわかる。新人候補者四六四人に絞って分析した結果、立候補者数が多い選挙区ほどポスターの笑顔度が得票に与える影響が大きいという結果が得られた。

総選挙では二八九の小選挙区があり、二人から六人が立候補し、一人だけ当選する。ここで得られた分析結果は「二〜三人しか立候補しない小選挙区ではポスターの笑顔度と票は無関係だが、四人、五人、六人と立候補が増えるにつれ、ポスターの笑顔度が高いほど票が増える」というものである。例えば、立候補者が比較的大きい(四人〜五人)選挙区から立候補している候補者が、全く笑わない状態からフルに笑った時、候補者の得票率が約二ポイント上がる。新人候補者が立候補している小選挙区の平均立候補者数は三・七人であった。候補者が増えると、なぜ笑顔度が重要になるのだろうか? 候補者が二人の選挙区であれば、二つの政党間の政策をめぐる選挙競争になり、多くの有権者は候補者の所属「政党」で投票先を選ぶことであろう。ところが候補者が増えるにつれて類似した政

策が入り乱れ、政党間の政策の違いがわかりにくくなる。とりわけ四つ、五つ、六つと多くの政党の候補者が類似した政策を主張し始めると、有権者は政策を整理する上で一種の混乱状態に陥り、各政党が主張する政策の違いというよりも、むしろ候補者の「見た目」などトリビアな要因によって投票することも十分考えられる。

さて当選するために新人候補者は笑うべきか? ここで得られた分析結果を踏まえれば「立候補する小選挙区から出馬する人数次第」ということになる。立候補する選挙区から四人以上出馬するのであれば、ポスターでの笑顔はより多くの票をもたらす可能性がある。しかし、二人もしくは三人しか立候補者がいない選挙区であれば、ポスターの笑顔度が得票率に与える影響力はないといえる。

「笑う門には福来たる」といわれている。選挙において「笑顔」は得票という福を呼び寄せる何らかの力があるのかもしれない。この福を呼び寄せるメカニズムに関しては、今後さらなる説明が求められる。